

元気 いっぱい!



◀ただ今「よさこい」の練習中。

▼教室で「ハイ、チーズ」。自分で設定したゴールを漢字一文字で表した習字や、行事を記録した写真などで、後ろの壁は賑やかです。



厚陽小学校6年1組 合言葉は「笑輪和」

厚陽小学校は、各学年1クラスということもあって、同級生の仲の良さは抜群です。その中でも一際仲の良い、6年1組におじゃましました。このクラスの学級目標は「笑輪和」。目が「?」になった私に、大和勇希君が、「笑輪和には、『いつも笑顔で、輪を大切に、ケンカのない平和なクラスに』という願いが込められているんだよ」と教えてくれました。一学期の間だけでも、埴生漁港でのキャンプ、花壇づくり、1年生とのふれあい活動など、学校内外での楽しい行事が盛りだくさん。文字通り「笑輪和」の写真が、教室の後ろの壁に所狭しと飾ってありました。

訪問時はちょうど、9月25日の運動会に向けて「よさこい」の練習をしている真っ最中。鳴子を手にした子どもたちは、担任の斉藤先生の動きを真似しながら、熱心に振り覚えていました。1回踊るだけでも汗だくなる早い動き。本番の運動会で、このがんばった姿をたくさんの人に見てもらえるといいですね。

8月1日～4日に札幌市で開催された「第4回全国ジュニアバレエコンクールジャングランプリ」。藤井真美さんは、このコンクールで児童の部（10歳～12歳対象）で4位となり、さらに、アメリカのコロラド・バレエで来夏のサマーセミナー参加という切符を手に入れました。

藤井さんは、両親の熱心な勧めを受けて、「黒木隆江バレエスタジオ」で3歳からバレエを始めました。週5回、3時間のレッスンを欠かしたことがないという彼女。コンクールの結果に、「もっとがんばれたはずなのに・・・」と悔しい思いもしましたが、「他の参加者の踊りを見て、役になりきっての表現力、回転動作の正確さなど、自分も身に付けたいと思ったところがありました。」と、大きな刺激を受けたようです。

このコンクールは、海外の一流バレエ団やバレエ学校から審査員を招いていることや、奨学金付きの海外バレエ留学が贈られる『スカラシップ賞』が設定されているという特色があります。入賞したからといって必ず受けられるとは限らない『スカラシップ賞』。だからこそ、バレエスタジオの黒木先生も、「彼女はこれから伸びる余地がまだまだあります。今回の受賞は、審査員の方たちに、その将来性を買われてのものだったのでは。」と、喜びもひとしお。

「将来は海外で活躍できるバレリーナになりたい。」と夢を語る藤井さんにとって、来夏のサマースクール参加は、海外へ羽ばたいていくための足がかりとなることでしょう。

夢 いっぱい!

「今はバレエのレッスンとともに、
英会話もレッスン中」



来夏、アメリカのコロラド・バレエに
4週間の短期留学をする

藤井真美さん（高千帆中1年）